

平成 26 年(2014 年)9 月 3 日(水曜日)



今日から帰国の途につきます。朝にペルージャを離れ、午前中は近郊のトラジメーノ湖を視察。イタリアで4番目の広さを持つ湖ですが、水深は浅く、深いところでも6メートル程度とのことで、もともと海だったところが隆起して湖になったそうです。

湖に到着すると、湖岸で何名かの漁師さんが朝に採れた魚を網から外しておられました。採れた魚は近くにある組合の施設へ持ち込むのだそうです。漁業に関する博物館(Museo della Pesca)も見学。トラジメーノ湖で行われている伝統的な漁法や生息している魚などが展示されていました。琵琶湖のエリに似た仕掛けもあり、漁に関する人々の様々な知恵が伺えて、興味深いものでした。

また、湖沼会議の初日に発表されていたトラジメーノ湖の漁業組合代表の方に偶然お会いし、先ほどの漁師さんがおっしゃっていた組合の加工場を案内していただきました。

この後、ローマ空港へ。イスタンブールを經由して日本への帰国の途に着きました。

平成 26 年(2014 年)9 月 2 日(火曜日)

湖沼会議は2日目に入りました。地元の新聞によれば昨日の初日に約1000人が参加したということです。今日は滋賀県職員も生物多様性をめぐって発表を行い、滋賀県内各地域の食文化や生活様式といった地域特性を紹介しながら、生物多様性戦略の策定に住民も参加することで、自分たちの地域の特性を見直すことに繋げてはどうかと提案を行いました。

明日のトラジメーノ湖の視察を挟み、9月4日、5日にも滋賀県職員が発表を行う予定です。

午後には、実行委員長のウベルティーニ教授のご紹介により、ペルージャ市長やウンブリア州知事などにお会いすることができ、30年目の節目に当たる第15回世界湖沼会議の成果をぜひ多くの方と共有し、更なる活動に繋げていきたい旨をお伝えしました。

夕方からは、湖沼会議に合わせてペルージャ外国人大学で開かれた日本人交流会に参加し、挨拶をさせていただき、国際湖沼環境委員会(ILEC)の皆さんをはじめ、開催地であるペルージャの皆さんに対し、今回の湖沼会議開催への感謝と御礼を申し上げました。最終日のペルージャ宣

言採択に向けて、ますます活気ある発表や議論が行われるように、そしてその成果を世界で共有し、研究者、住民、行政が一体となって湖沼が抱える課題の解決に向けた取組を強めていければと思います。



平成 26 年(2014 年)9 月 1 日(月曜日)



「湖は地球を映し出す鏡」をテーマに、第 15 回世界湖沼会議がペルージャで始まりました。初日の開会式は、ペルージャ大学の歴史あるメインホールで行われ、今会議の運営委員長でローマ・ラ・サピエンツァ大学教授のウベルティーニ氏をはじめ、開催地の首長の方々などから歓迎の挨拶とともにペルージャの歴史や近郊のトラジメーノ湖などの紹介をいただきました。

今から 30 年前の第一回世界湖沼会議が行われた滋賀県の知事として、私もスピーチの時間をいただき、1984 年当時に湖沼と人間のつながりを唱えられた理念が今も色褪せず、むしろ重要性を増していることを訴え、琵琶湖が抱えている新たな課題や「せっけん運動」をはじめ、琵琶湖の環境保全に向けて住民や行政が一体となった滋賀県での数々の取組についてご紹介しました。

開会式の後には、湖沼や水質をめぐる研究などの分科会が開かれ、私も住民参画による流域管理の方法をテーマにした分科会を傍聴しました。この分科会では滋賀県から針江生水の郷委員会の方が「川端(かばた)」とそれを保存する地域の取組を紹介され、この分科会に続いて夕方にも、琵琶湖とペルージャ近くのトラジメーノ湖をテーマに、それぞれの地域の関係者が議論を行う時間が設けられるなど、滋賀における地域の取組を世界の皆さんと共有できる大変貴重な機会を頂けたと思います。